

第 2 章

氣 象

第 2 章 気 象

概況(平成13年)

1 月

この月は、冬型気圧配置となる日が多く、特に中旬は強い冬型気圧配置となって上空に強い寒気が流れ込み、厳しい寒さが続いた。下旬は寒さも和らぎ気温は平年を上回る日が多かったが、低気圧や前線の影響を受け曇りや雨の日が多かった。

2 月

この月は、中旬に冬型の気圧配置が一時的に強まり寒さが厳しくなったが、その他の期間は高気圧に覆われ晴れて暖かい日が続き、特に下旬はかなりあたたかくなった。前線や低気圧の影響で月のはじめと終わりにまとまった雨が降った。

3 月

この月は、気温の変動が大きかった。上旬後半から中旬前半と下旬の後半以降は、強い寒気の影響で真冬並みの寒さとなり、9日には大阪では3月としては14年ぶりの積雪を観測した。一方、中旬後半から下旬の中頃にかけては4月中旬頃の陽気となった。

4 月

この月は、高気圧に覆われ晴れる日が多く、大阪の月間日照時間は統計開始以来もっとも多かった。一方月間降水量は統計開始以来最も少ない記録となり、アメダスにおいても府内8観測所のうち4観測所で最小値を更新した。

5 月

この月は、上旬と下旬には、日本の南岸を低気圧が頻繁に通過して、ぐずついた天気が多かったが、まとまった雨になったのは23・24日両日のみで、月降水量は府下全域で平年より少なかった。中旬は高気圧に覆われて乾燥した晴天が続いた。

6 月

この月は、南海上の梅雨前線が5日に南岸まで北上し6日にかけて府下全域で雨となり、「近畿地方は5日頃(平年は6日)に梅雨入りしたと見られる」と発表された。梅雨入り直後と中旬に梅雨前線の影響でまとまった雨が降ったが、その他の期間は晴れる日が多く月降水量は平年を下回った。月の終わりには亜熱帯高気圧の勢力が強まり真夏のような暑さとなった。

7 月

この月は、例年に比べ亜熱帯高気圧の勢力が強く、梅雨前線の位置が北に偏ったため、まとまった雨が降ったのは中旬の中頃のみで、晴れて暑い日が多かった。府下の降水量は平年の半分以上のところが多く、月平均気温は平年より2~3 高くなった。梅雨明けは19日頃で平年並みであった。

8 月

この月は、亜熱帯高気圧に覆われ、19日まで安定した晴天となり、連日真夏日と熱帯夜がつづく厳しい暑さとなった。20~21日にかけて台風11号の影響で大荒れの天気となった。台風通過後は天気が周期変化となり、気温は平年を下回る日が多くなった。

9 月

この月は、前半は秋雨前線や台風の影響で曇りや雨の日が多く大雨となった日もあった。後半は、高気圧に覆われ晴れる日が多かった。気温は上旬と下旬に平年より低い日が多く、中旬は平年より高い日が多かった。

10 月

この月は、期間を通して天気はおおむね周期的に変化した。1日と10日は低気圧や前線の影響により各地で大雨となり、府下の月降水量は平年の2倍を超えたところもあった。その他の日は移動性高気圧に覆われ晴れる日が多かった。

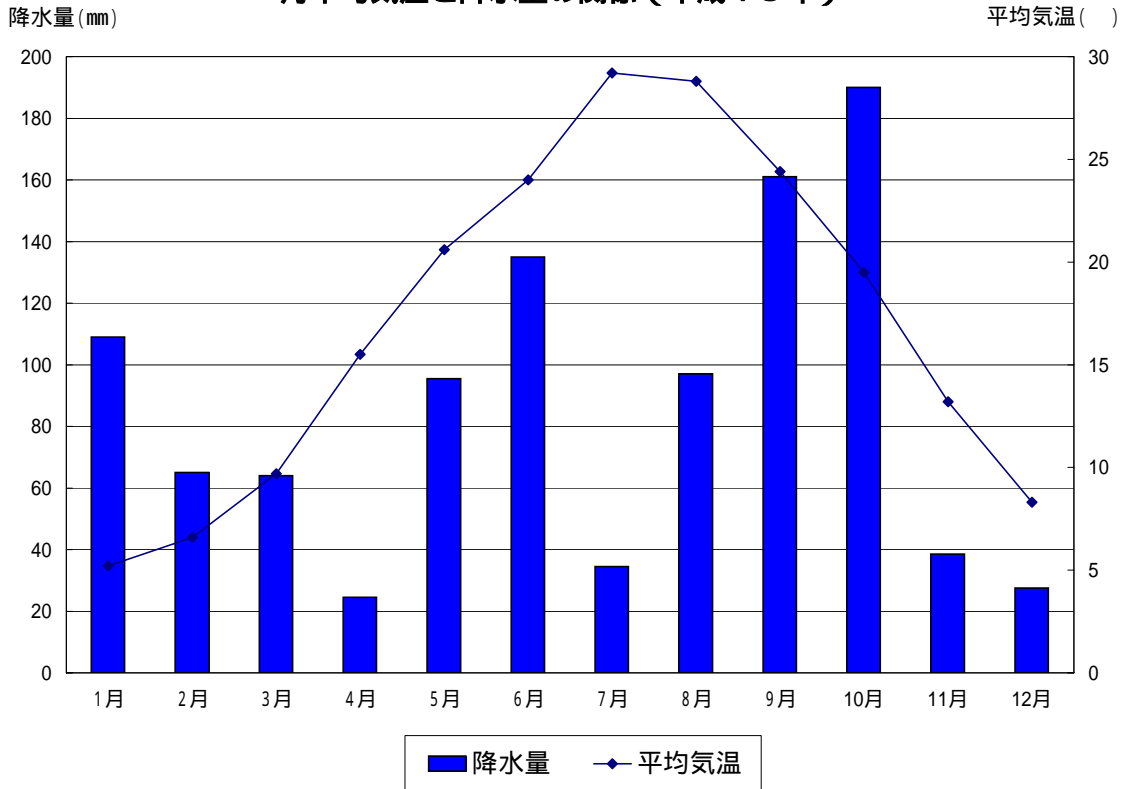
11 月

この月は、月のはじめを除いて比較的晴れる日が多く降水量は平年より少なかった。上旬と下旬は、冬型の気圧配置となる日が多く、気温は平年より低い日が多かった。下旬は中頃まで高気圧に覆われ晴れて暖かい日が続いた。

12 月

この月は、冬型の気圧配置になる日が多かった。前半は南海上の亜熱帯高気圧の勢力が強く寒気の南下が押さえられていたが、後半になると寒気が西日本上空まで流れ込み寒い日が多くなった。大阪では12日に初霜、23日に初氷を観測した。

月平均気温と降水量の関係（平成13年）



月別日照時間（平成13年）

